

# はりま 第一回 桜シンポジウム

桜が咲きほころぶ美しい播磨の里を目指して...

harima  
SAKURA  
symposium  
2019

春の訪れを告げる桜。日本で古くから人々に愛されている桜には約三五〇種の多種多様な品種があります。中播磨の至るところでこの美しい桜が咲きほころぶまちづくりを目指し、開花時期の異なる桜を計画的に植栽していきます。中播磨地域の自治体・事業所・諸団体・幼・小・中学生や地域住民の方々と連携をとりながら環境整備に取り組めます。あなたも私たちの活動に参加しませんか？

日時：2019年3月29日（金）13:00～16:00

会場：姫路市文化センター 小ホール

- オープニングコーラス コールBANSHUの皆さん
- 基調講演 演題「さくら事始め」  
講師：公益財団法人日本花の会 主幹研究員・樹木医 和田 博幸氏
- 事業計画の発表 中はりま桜の名所づくり連絡協議会会長 熊谷 哲
- パネルディスカッション

主催：中はりま桜の名所づくり連絡協議会

〒679-2132 兵庫県姫路市香寺町須加院 2-182 (NPO 法人 はりま里山研究所内)  
TEL:090-1222-2996 (事務局：三山) Mail:heartec3mt@yahoo.co.jp

共催：公益財団法人日本花の会・中播磨地域ビジョン委員会・NPO法人はりま里山研究所  
後援：兵庫県中播磨県民センター・姫路市・神河町・市川町・福崎町・各市町教育委員会  
神戸新聞社・一般財団法人姫路市まちづくり振興機構・播磨リビング新聞社

harima SAKURA symposium



県政 150 周年記念事業

平成30年、兵庫県は成立150周年を迎えました。この節目にあたり、ふるさと兵庫を再認識し、新たな兵庫づくりを考える機会とする、当事業を実施いたします。

# 「中はりま桜の名所づくり連絡協議会」は、播磨をこよなく愛する人々の集まりです。

「桜は人で咲く」といわれるように人との深い関わりのある樹木です。古来より四季を通じて注意深く観察をしながら育て、地域の人々と連携した活動を続けてきました。先人が培った自然に親しむことで播磨をこよなく愛する心が育まれます。やがてそれが強い絆となってまちづくりの大きな原動力になるでしょう。

当会の熊谷哲会長が平成29年6月に、全国規模で桜を活用したまちづくりを展開している「公益財団法人日本花の会」の理事に就任し、「中はりま桜の名所づくり」の活動で日本花の会の指導と協力を全面的に受けることが決まりました。日本花の会の研究員で「平成の花咲かおじさん」と呼ばれている樹木医の和田博幸先生を中心に中播磨に在住の皆さんと学習会を開催して桜の育成技術の習得に努めます。また幼・小・中学生の子ども達にもこの活動への参加を呼びかけ、中播磨の発展に寄与する人材の育成に繋げていきます。この活動を通して自然に触れ合うことで、日本の森林がかかえている様々な問題点に気づき、「自然豊かな森林は大きなダム」といわれているように保水力を持った本来の自然林の姿に少しでも戻して近年全国規模で頻繁に発生している豪雨による洪水災害に耐えることが出来るふるさと播磨を目指します。

中播磨からこの事業をはじめ、東播磨・北播磨・西播磨と活動範囲を拡大し、将来「自然豊かな兵庫県」になることが私たちの願いです。

## パネルディスカッション パネラーの紹介

### ● 和田 博幸（わだ ひろゆき）氏 公益財団法人日本花の会 主幹研究員・樹木医



昭和36年、群馬県生まれ。昭和58年東京農業大学卒業。在学中、草むしりのアルバイトをきっかけに山野草に興味を抱く。その仕事ぶりが目にとまり、「日本花の会」に誘われ、卒業と同時に職員になる。2000年、樹木医に認定される。翌年から山梨県北杜市にある日本三大桜の一つで、樹齢二千年とされる山高神代桜（やまたかじんたいざくら）を瀕死（ひんし）の状態からみごとに復活させる。以後、高遠城址公園（たかとうじょうし）（長野県伊那市）、隅田公園（東京都台東区）など全国70か所以上の桜の名所で満開の桜が咲くように陰で支え、さらに公園全体のプランニングを行う。2015年、緑道の桜再生プロジェクト「相模が丘仲よし小道 さくら百華の道」（神奈川県座間市）が完成。桜に関する高度な専門性と細かい心配りで桜の名所を作り上げ守っていく姿勢が認められ、2016年に「NHKプロフェッショナル仕事の流儀」でも放送されたり、2018年の朝日新聞「フロントランナー」でその活動が紹介されて「平成の花咲かおじさん」と全国の桜守から厚い信頼を集めている。

### ● 田中 基康（たなか もとやす）氏 兵庫県中播磨県民センター長



昭和36年、たつの市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。兵庫県に入庁後、企画県民部新行政課長のほか、総務省自治行政局課長補佐、関西広域連合総務課長など国や関西エリアでの業務に従事。農政環境部環境創造局長・農政企画局長として自然環境保護や豊かな森づくりに従事。産業労働部政策労働局長を経て、平成29年4月から現職。姫路市ほか中播磨地域で、地域づくり、産業振興や観光、防災、道路河川・港湾、農林水産、健康福祉など、県としての総合行政を担っている。最近の一番のテーマは若い人たちの「ふるさと」意識の醸成。

### ● 石原 憲一郎（いしはら けんいちろう）氏 兵庫県参与（花と緑のまちづくり推進担当）公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター技術顧問 / 資格:技術士(都市及び地方計画) 公園管理運営士



昭和22年、神戸市生まれ。昭和45年東京農業大学卒業後、建設省（現国土交通省）入省。本省、総理府（現内閣府）等で公園緑地や都市計画の政策立案（建設省等22年間）。1993年4月より兵庫県に転出。都市住宅部参事、兵庫県立淡路景観園芸学校副校長・校長を経て2008年3月定年退職（兵庫県庁16年間）。2008年4月から（公財）兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長。国営明石海峡公園管理センター長も兼務。2018年4月から現職（協会11年間）思い出に残る業務。国営沖繩記念公園（首里城正殿復元）、淡路景観園芸学校（開設準備から建設、運営まで）、淡路夢舞台自然再生。主な著書：フラワーランドスケーピング（共著）講談社、景観園芸・宣言（共著）ピオシティ、成熟型ランドスケープの創出（共著）ソフトサイエンス、差異の美学（共著）出版ワークス等。

### ● 米谷 啓和（こめたに ひろかず）氏 NPO法人スローサエティ理事長・米谷紙管製造株式会社代表取締役社長



昭和39年、姫路市生まれ。東京大学文学部卒業。株式会社PHP研究所で書籍編集者を経て、米谷紙管製造株式会社に入社。平成14年社団法人姫路青年会議所理事長。平成16年「多様なつながりに生かされたスローサエティの実現」をスローガンに社団法人日本青年会議所の会頭を務める。「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表。NPO研修・情報センター「協働コーディネーター養成講座」上級修了。姫路駅北駅前広場整備推進会議委員、姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会委員、「官民連携のための実践型まちづくり人材養成講座とネットワーク」協働事業などを経て、現在は、JR姫路駅前広場及びまちなか公共空間の管理、運営をマネジメントする「一般社団法人ひとネットワークひめじ」の理事を務めると共に、姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会委員、姫路城西側エリアのみらい構想策定プロジェクト「城の西エリアマネジメント」準備会の代表世話人。

### ● 熊谷 哲（くまがい てつ）理学博士・兵庫県立大学名誉教授・公益財団法人日本花の会理事・NPO法人はりま里山研究所理事長・中はりま桜の名所づくり連絡協議会会長



昭和25年生まれ。京都大学大学院理学研究科修了。2006年から自宅ガーデンに隣接するヤマザクラの残る里山の整備を始め、里山ガーデンとして地域に開放する。2014年にNPO法人はりま里山研究所を設立し、理事長に就任する。2016年に自宅の庭と裏山を一体整備し、里山として地域の活性化に貢献したことが評価され、「第26回 全国花のまちづくりコンクール」で花のまちづくり最優秀賞（国土交通大臣賞）を受賞。翌年6月にこの受賞が縁で「公益財団法人日本花の会」の理事に任命される。またこれらの活動が評価され、2016年に兵庫県功労者表彰（地域活動）を受ける。この他にも兵庫県下多数の環境活動団体の役員を務め後進の育成に努めている。

コーディネーター

### ● 赤澤 宏樹（あかさわ ひろき）氏 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所教授・兵庫県立人と自然の博物館自然・環境マネジメント研究部研究部長



昭和45年生まれ。大阪府立大学大学院農学研究科修了。農学博士。兵庫県立淡路景観園芸学校 主任景観園芸専門員（併任）。World Urban Parks Japan 理事。公園や広場などオープンスペースの計画手法について、多様な主体の協働による新しい質の創出を含め研究・実践している。兵庫県都市計画審議会委員、神戸市公園緑地審議会委員、西宮市景観審議会委員などを務め、各地の緑の基本計画や景観計画の策定に関わる。著書に『みどりのコミュニティデザイン』、『パークマネジメント 地域で活かされる公園づくり』（共に共著、学芸出版社）、『復興の風景像』（共著、マルモ出版）等。